



2  
3.5  
12.5  
19.20  
25.27.28  
43.23

二月二十八日 広酪本所会議室

## 株式一部譲渡へ 3M事業28事業完了決定

理事八名、監事二名（一名欠席）の出席のもと、理事の過半数の出席を認め、岩竹重城代表理事組合長が議長となり、次の協議事項を審議し決定した。

### 協議事項

#### 協議一 子会社・山陽乳業(株)の株式譲渡

▼平成二十八年六月二十四日に開催した第二十二回通常総会において「子会社・山陽乳業(株)の株式一部譲渡の件」を議案上程し、同社の経営継続と発展を目的として、現行の広酪持株数三十一万六千八百八十八株【総株式数四十七万七千九百六十二株(株主七法人・個人一名)】を優良引受先に一部譲渡すると共に、将来的に三割以下に減ずることを決定していた。

▼同社とは互いに優良引受先を模索し

てきたが、同社が推薦する優良株主となりうる株式譲渡先二社の紹介を受け、審議の結果、この要請に応じ、株式十三万株の譲渡を決定した。

▼譲渡後の広酪の位置づけは、筆頭株主のままではあるが、所有割合は五十%を下回る三十八・九%となり、子会社の位置づけからは外れる。

#### 協議二 子会社管理規程第九条に基づく職員の出向

▼子会社・山陽乳業(株)から、同社酪農資材部の要員確保のため、生乳取引に精通した広酪職員の出向を求める要請文書が届けられた。

▼審議の結果、子会社の業務執行及び管理運営を把握する観点から、子会社管理規程第九条(役員)に基づき、指名職員を当面、同社顧問の立場での派遣とし、将来的には常務取締役等の要職登庸をも見据えて、平成二十九年三月

#### 協議三 3M事業28の事業進捗状況と今後の取扱い

十三日付けをもって派遣することで要請に応じることを決定した。

#### 一・3M事業28の取組経緯・事業完了

▼平成二十八年年度の生乳生産対策の一つに掲げる「生乳需要期対応酪農経営向上対策事業(3M事業28)」は百五十頭以内として取り組むこととしていたが、昨年末より北海道初妊牛価格は高騰を続けていることから、できる限り安価に取得できることを考慮し、導入元を北海道に限定せず、その他県外からの取得も視野に入れて事業に着手していた。

▼去る八月四日付けで組合員に対して行った事業案内では、北海道現地価格の高騰等から四十五頭の申請に止まる中、第一期分は頭数規模百頭以内、予算規模八千二百万円として、広島県信連を窓口日本政策金融公庫の共同利用施設資金と広島県信連のPOP(パー)資金を借り入れて事業に着手した。

▼第一期分において取り纏めた組合員

からの事業利用申請分に加えて、生乳生産基盤維持・強化への緊急的な措置が必要な組合員、並びに不慮の疾病等の事故に伴う酪農経営への影響を被った組合員からの事業申請分と随時受付分を合わせ、平成二十九年二月一日迄に事業消化した対象頭数は七十一頭に止まった。

▼現状をみて、北海道家畜市場における乳用初妊牛相場が高値にある実態から、年度末までに組合員からの3M事業の利用申請も想定され難いと判断し、平成二十九年二月一日取得分をもって事業完了とすることを決定した。

## 二・3M事業28の事業完了に伴う事業資金未使用残額の精算

▼「3M事業28」に投じた費用総額は六千六百三十二万四千円である。事業完了に伴い借入金未使用残額千五百六十七万六千円は、各資金借入先へ借入額の割合に応じた繰上償還を決定した。償還期日は平成二十九年三月三十一日(入金)。

### ■報告事項

- ① 酪農制度改革に関する状況
  - ② 子会社・山陽乳業(株)の経営状況
  - ③ 平成二十八年度生乳計画生産の進捗状況
  - ④ 生乳生産基盤調査(平成二十九年二月一日現在)の結果
  - ⑤ 集乳委託先の変更
  - ⑥ 中国生乳販連における生乳計画目標数量枠の返還
  - ⑦ 経営支援・重点指導対象組合員等の経営状況
  - ⑧ 組合員の加入及び脱退の状況
  - ⑨ 事業活動における業務執行状況
  - ⑩ 若齢預託事業飼養管理マニュアルの紹介
  - ⑪ 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業(J・milk・豪州産初妊牛導入事業)
  - ⑫ 平成二十九年度加工原料乳補給金単価及び
  - ⑬ ALIC事業関連対策の決定
  - ⑭ 平成二十八年度アフラトキシンM1検査の実施
- 平成二十九年畜産物関連対策の概要

## 第6回

### おいしい酪農経営!!

# キャッシュフローを計算する(1)



全国酪農業協同組合連合会  
購買部酪農生産指導室課長

たんと やすし  
丹戸 靖氏

### 「確定申告」はスムーズに進みましたか？

皆さんのお手元には、出来たての決算書があると思いますので、それを利用して簡単な経営分析をやってみたいと思います。まず、最初にやって頂きたいのは、「キャッシュフロー」を計算することです。

今月はキャッシュフローと損益計算書の違いについて紹介します。

キャッシュフローとは、ある期間に入ってきたお金と出て行ったお金の差のことです。家計簿と同じ感覚です。一方、損益計算書は売上高と原価を対応させるため、キャッシュフローに様々な調整を施したものです。

用語も次のように異なります。

(区 分)	(キャッシュフロー)	(損益計算書)
入ってくるお金	収 入	売上高
出ていくお金	支 出	費用(原価)
出入の差	収 支	損 益

「キャッシュフロー」と「損益計算書」では、入ってくるお金や出て行くお金を勘定に入れる時期が異なります。キャッシュフローでは、実際の入金・出金があった際に算入します。一方、損益計算書では、売上高は入金時期に関係なく、製品を出荷した時期に算入します。さらに、費用は売上高に対応した時期で算入されるように、調整が行われます。よって、両者の違いは「いつ計上するのか?」ということだけです。

# TMR利用者意見からPDCA



## 飼料利用推進委員の委嘱と委員長の互選

十五名の委員委嘱と、そのうち委員長に和田慎吾氏(広酪理事)を選出。任期は平成二十九年三月一日〜平成三十年三月三十一日とした。

## 飼料利用推進委員委嘱者(15名)(敬称略)

選出区分	氏名
備北・南部	中田雄久
	才木啓久
	田邊輝之
西部	西平孝治
	吉川春三
	寺尾志太
東部	角康晴
	伊達薫
	田邊光次
広酪	新舎和久
	鈴木道弘
	温泉川寛明
	川角晴俊
	和田慎吾

## 平成29年度広酪購買重点15品

	重点品目	選定内容	推進目標数量
継続	広酪製造飼料	広酪TMR飼料	12,000t
	系統飼料	全酪連・全農配合飼料	7,000t
	広酪リンカルペレット	ミネラル補給剤	4,500袋
	HR1014C	ビタミン補給剤	2,500本
	カウライザー	産褥期対策品	1,700本
	カーブアイドNEO	産褥期対策品	1,200袋
	ドロマイト	暑熱対策並びに消毒剤	230袋
	エスカリウ	湿気吸収剤、スベリ止め	1,300袋
	快肝	産褥期対策品	50袋
	ベッセルタオル	乳房炎対策資材	1,600枚
	ベッセルクリーナー 5kg	搾乳器具等の洗剤	100袋
	カーフトップEX	代用乳	1,600袋
新規	グットスタート 250g	代用初乳剤	3,000袋
	モーベスト	子牛の防寒対策資材	500枚
	レーザーポインター	カラス除け対策資材	100個

## 利用者からの主な意見

▼TMRは製造して十日位の供給を希望する。

▼広酪TMR20WCSの試験給与を行ったが、嗜好性等には問題がないものの、単品の粗飼料の良し悪しで牛の調子に波があった。

▼TMRへの加水要望を行って現状供給してもらっているが、以前のTMRに比べて嗜好性が良くなった。採食量が増え乳量も上がった。

▼製品の製造番号により粗い物と粉っぽい物で嗜好性は変わる。

▼利用組合員の意見を組み入れて貰えるTMRづくりをお願いしたい。

▼TMRが堅いことで二名の利用者が他社に変更したが、TMRをほぐす方法として耕耘機等があったが、利用者にとってこの機械の購入を勧めるのでなく、広酪から提供してほしい。

▼身体に負担を掛けない方法で提供してほしい。

▼秋頃のTMR製品は嗜好性が良くなかった。また一月頃からは乳量も増えてきた。

▼広酪TMR20WCSは現行より値上がりしており、組合長発信の「一円でも安い飼料の供給」に努めて貰いたい。

## 報告事項

①TMR飼料の供給状況

②広酪TMR飼料の課題への取り組み状況

③平成二十八年産飼料の確保状況

④新TMR飼料の試験状況について質問・意見

た。広酪TMR20WCSの供給は三月中旬から行うことは、適当との判断を得た。

「飼料利用推進委員会並びにTMR利用組合員との意見交換会」を開催し、委員八名、TMR利用組合員三名のほか、畜産技術センター一名、全酪連三次駐在員事務所二名、広島県農業共済組合一名、事務局を合わせ二十二名が出席した。主な協議事項は次のとおり。

## 平成二十八年産飼料の混合割合等変更した新TMR飼料への切り替え

平成二十七年産は飼料の現物で二十五%を混合した「広酪TMR25WCS」を平成二十八年産飼料の生育穂数が多いが良くなかったことから、不消化物の影響により栄養不足を招かないために、基礎配合の濃度を上げた物で対応して、飼料粗混合量を二十%とし